

没後 50 年

1881~1968

東洋学園

うだ ひさし

創立者 宇田尚 展

じきょう やま ず

— 自彊不息の生涯 —

12 月 11 日 (月) ▶ 2018 年 5 月 25 日 (金)

月~金 (平日) 9:30~16:30

*12/26~1/5 2/16 3/2, 9, 16 5/1, 2 休館

観覧・解説書(本文 56 頁) 無料

東洋学園創立 90 周年・前身校開校 100 周年 記念シリーズ 5 終

2016 年 創立 90 周年 / 2017 年 前身校開校 100 周年 / 2018 年 創立者没後 50 周年

東洋学園史料室

常設展 通年公開

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-26-3

東洋学園大学 本郷キャンパス 4 号館 6 階

TEL. 03-3811-1783 (広報室) / 03-3811-2840 (史料室) / URL <http://www.tyg-archives.jp/>



創立期展の終わりに

創立期シリーズの終わりにあたり、学校法人東洋学園創立者・宇田尚（うだひさし 1881～1968）をとり上げます。

本シリーズを通じて見てきたように、明華女子（歯科医学講習所→歯科医学校→歯科医学専門学校 1917～1926）から東洋女子への改称を経た1926（大正15）年11月4日の文部大臣指定認可＝“東洋学園創立”は、理想を掲げて一人の教育者が立ち上がるという、一般的に想像される私学創立神話とは様相を異にします。

では、なぜ、宇田尚は創立者なのか。

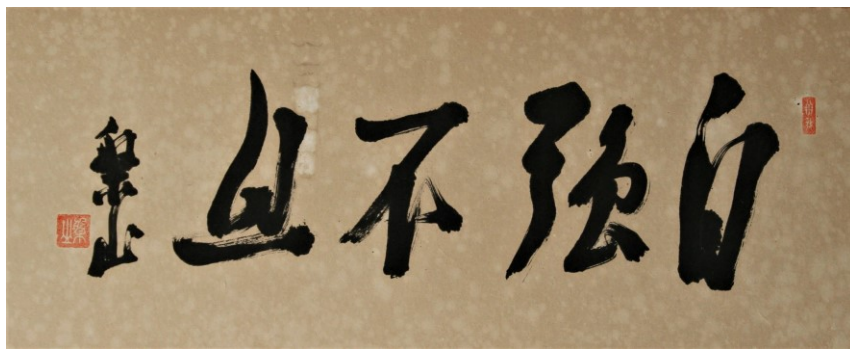
端的には教育者、指導者としての器量が、没後の宇田尚を創立者たらしめた淵源でしょう。

宇田尚は旧制第一高等学校、陸軍幼年学校の倫理学教授だった父、宇田廉平の唱えた儒教的武士道倫理（日本精神）を継承しました。「科学教育を女性に施すに徳操の練磨を基」とする教育方針で臨み、それが昭和戦前期の社会に迎えられました。宇田校長指導下の本学は紛争に明け暮れた前身校時代から一変し、統制が行き届きながら家庭的な暖かさもあり、経営面では先行していた競合校を圧倒しました。

敗戦によって宇田尚の拠って立つ思想は否定されましたが、それは保守主義の底流に流れ続けました。戦後70年以上が経過した今、その封印を解き、客観視を試みたいと思います。

自ら彊めて息まず「不屈の精神で、再三の難事を克服」*してきた宇田尚の生涯を展示と解説書で通観します。

* 「父、宇田尚の思い出」 長女：馬渡 房 学校法人東洋学園理事長・東洋女子短期大学学長（1984年）



ばんざん じきょうやまず
磐山（宇田尚）自強不息

本来は自彊不息。易経の「天行健君子以自彊不息」（天地の運行には休みがなく君子も自ら彊（強）めて怠ることがない）。明治人・宇田尚の生涯は自彊不息そのもの。後継者はこの言葉を建学の精神としました。



出展

- ① 宇田尚著書『日本文化に及ぼせる儒教の影響』1935年 / その他著書⑤ 14点
 - ② 宇田尚所用トランク（海外出張に使用）
 - ③ 宇田尚書「歯は犂犀の如し」（詩経『衛風』）／川上みね教授・付属院長への弔辞
 - ④ 山下奉文より宇田尚あて書簡 1940～43年 / その他書簡
- 写真：北白川宮成久王、竹田宮、東久邇宮、朝香宮と宇田尚 1907～09年頃 など

アクセス

東京メトロ丸ノ内線・都営地下鉄大江戸線	本郷三丁目駅から徒歩5分
都営地下鉄三田線	水道橋駅から徒歩5分
JR中央（総武緩行）線	水道橋駅から徒歩7分
都バス 都02（大塚駅前⇄錦糸町駅前）	真砂坂上から徒歩3分
同 上69（小滝橋車庫⇄上野公園）	同

宇田尚

明治14年、東京府下谷区竹町で生まれ東京、奈良、栃木で育つ。日露戦争・旅順要塞攻撃における野砲運用で功績を立て、戦後は北白川宮成久王に仕える。

大正15年以降、財団法人東洋女子歯科医学専門学校（現 学校法人東洋学園）理事長・校長の他、財団法人斯文会（湯島聖堂）理事、北京臨時政府教育部顧問、徳富蘇峰が設立した財団法人青山会館館長などを歴任。昭和43年86歳で逝去。

女婿で東洋女子短期大学学長を務めた愛知揆一（1907～1973）は蔵相、外相、文相、法相、内閣官房長官を歴任するなど、後継者にも恵まれた。

